

昭島礼拝 2020/6/14

聖書：エペソ 5:7-11

主題：光の子どもとして

賛美：

みなさん。おはようございます。今日は神学生支援デーです。東京フリー・メソジスト教団の各教会で、神様から伝道者として働くように召されている献身者のために祈りたいと思います。皆さんは、キリストに従う者としてすべてを神様に差し出してくださいました。彼らがこれからも神様に従い、神様の祝福を多くの人に届ける者として活躍できるように祈りたいと思います。また究極的には、私たちクリスチャン一人ひとりも、毎週、毎日、自分を神様に捧げて歩んでいます。つまり私たちも毎日、神様に献身して過ごしています。神学生たちが神様に自分をささげている姿勢に見倣い、私たちも自分の献身の思いを新たにさせて頂きたいと思います。

今日はエペソ人への手紙 5 章を開いて頂きました。有名な御言葉ですが、「光の子どもとして歩みなさい。」と書かれています。イエス様は私たちに対して、「あなたがたは世の光です。(マタイ 5:14)」と仰いました。神様の救いを受け取り、神様の愛を受け取って、神様の光を放つ者となったのです。私たちが神様の光を受けて、反射させて輝かせることで、世の中の人には神様の栄光を垣間見るのです。日本人はわりと恥ずかしがり屋なので、注目されると「見ないでください」と控えめな気持ちになるのですが、私たちは誰でも周りの人に影響を与えて生きています。全く影響を与えない人もいませんし、全く周りの影響を受けない人もいません。ですから私たちは、良い影響を受け、また与える存在であつたらいいなと願います。神様は、あなたがたは神様から良い影響を受け、

神様の良い影響を人々に与えるように生活してほしいと願っておられるのです。

エペソ人への手紙を書いたのはパウロという人物です。先週見ました 4 章では、パウロが異邦人としての生き方を捨て、神に救われた者としての生き方をするように勧めていました。今日の 5 章でもその続きで、同じように異邦人の空しい生き方と、光の子どもとしての生き方を書いています。異邦人、外国人が全員良くない生き方をしているから罰しなさいという事ではなく、私たちは神様に救われて光の子どもとなったのですから、私たちの生き方を変えなさいと言っているのです。聖書の教えは常に、自分を変えるように勧めます。他の誰かを変えさせよという事ではなく、自分の行いをあらためよと勧めています。私たちは聖書を読んで、他の人を批判するのではなく、自分の行いを悔い改めなければなりません。ですから私たちはこれを読んで、自らを省み、悪い行いから離れ、善い行いができるように神様から愛を受け取りたいと思います。

パウロが 5 章で挙げている、空しい生き方とは何でしょうか。どのような悪い行いから離れるように勧めているのでしょうか。5:3-4 では悪い言葉を口から出さないようにと教えています。5:4 には「わいせつなことや、愚かなおしゃべり、下品な冗談もそうです。これらは、ふさわしくありません。」とあります。人を非難したりする言葉も良くないですが、品性を下げるような発言も良くないという事でしょうか。これは自分の品性を保つという意味においてもそうですが、先ほども少し述べましたように私たちの行動は他の人に影響を与えます。下品な言葉遣いをする人と多く接すれば、周りの人も下品な言葉遣いをしてもいいんだと思うようになります。ですからそういうことは避けなさいと述べています。しかしどのような言葉を話すかは難しいですね。つい口が滑ってしまうこともあります。そのような時にもお互いに配慮をもって、「あ、そんな言葉使っちゃいけないんだ〜」というように人を責めるのではなく、優しく受け止めて「いい言葉を使いましょう」と良い方向に勧めたいと思います。そのように人を正すような時にも言葉遣いを気をつけるという事です。

また口から出る言葉だけでなく、行動においてもパウロは勧めています。5:3 や 5:5 に書かれています。淫らな行いや汚れを避けるようにと勧めています。聖書で淫らな行いとか、不品行など出てきた場合、ほとんどは性的な行動に関することです。日本社会は諸外国と比べても性的乱れがひどい国だと言われています。世界水準から行くと、とても低いようです。ふだんはそんな風を感じないかもしれません。しかし電車の広告、町中で見かける広告、テレビの番組やCMなど、世界に比べて規制が緩いようです。ですからみんなこれが当たり前であるかのように生活してしまっています。聖書では昔のエペソの町やコリントの町も性的乱れがひどかったと言われていますが、もしかしたらそこに住んでいた人たちはそこまでひどいとは思っていなかったでしょう。私たちは周りの人がこれ位大丈夫じゃんと思えば、大丈夫だと感じますし、私が大丈夫だと思えば、他の人も大丈夫だと思ってしまう、そういう中に生きています。パウロはそのような今までの異邦人としての基準を止めて、神様の基準で生きなさいと仰います。神様の助けを頂いて、性的な乱れを止めたいと思います。

パウロは異邦人の空しい生き方から離れ、光の子どもとして歩むように勧めます。私たちが自分の言葉に気をつけ、不品行から離れて歩むなら、その影響は社会全体に良い影響を与えます。神様の正義、神様の愛を世の中に示すことができます。エペソ 5:8-9 を読みます。「あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。 9 あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。」今までは神様を知らず、良い生き方も分からず、悪い行いに流されていました。しかし今は神様の救いを受け、神様の正義、神様の愛を教わりながら生きています。ですから悪い行いから離れ、善い行いに歩むように勧めています。悪い言葉を口から出すのではなく、むしろ感謝の言葉を口にするようにしなさいとパウロは語っています。これはですね。すごく変わります。私も体験しました。聖書にはたくさん感謝しなさい

いという言葉があります。感謝、感謝って言うけれど、そんなことで変わるのか？と思うかもしれません。変わります！断言できます。私たちの考え方が大きく変わってきます。誰に何を感謝するのかともよく言われますが、神様に感謝するのは、もちろん誰かから良い事をされたら、その相手にも感謝するのですが、誰かからという事が目に見えてわからなくても、神様に感謝して見てください。私は感謝もそうですが、ご飯を食べて「おいしい！」と言う言葉を言う事が少ない人間でした。お母さんの料理がおいしくなかったわけではありません。おいしかったです。たぶん、かなりおいしい方だと思います。しかしそれに対して、「おいしい！」とか「お母さんありがとう」という事をほとんどしないで大人になってしまいました。すみません。しかしほとんどしてないなという事がある時気づいたんです。それは友達と食事をしている時に、何でもすぐに「おいしい！」と叫ぶ友達に会ったんですね。「おいしい！レストランなんかよりずっとおいしい！」というものですから、「そんな大げさな。」とも思ったんですが、その時の食事がとても楽しかったんです。それは多分、その友達が「おいしい！おいしい！」と、とても満足そうにしてたからです。その満足感が私に伝わったんです。影響を与えたんです。まさに神様に感謝して、いつも満足してる人の隣にいと、良い影響を与えるということです。それで自分も気をつけて「おいしい」と言うようにしました。実際、おいしいご飯を食べてるわけですから。おいしくないものを食べて無理に「おいしい」と言おうというわけではありません。ただ感謝の言葉を口に出す。「おいしい」と言うその言葉が出るか出ないかで、全く雰囲気が変わってきます。「光の子どもとして歩みなさい」と聖書は言います。それは「神様とはこのようなお方です。聖書はこのような書物です」といつも難しい話をしなさいということではありません。良かったと思う時には素直に「良かった。神様感謝します」と言いなさい。おいしいご飯を食べた時には「おいしい！作ってくれた人ありがとう！神さまありがとう！」と言いなさいという事です。それだけでいいのです。それだけで

私たちはキリストの香りを放っています。それだけで神様にある喜びを他の人と分かち合う事ができるのです。それだけで神様の栄光を放つ事ができます。それは神様が私たち人間を、周りの人に影響を与える存在として造って下さっているからです。そしていつも私たちの背後で働いていてくださるからです。

5:10 でパウロは「何が主に喜ばれることなのかを吟味しなさい。」と語ります。神様が喜ばれる事、それは私たちも喜ぶことだと思います。周りに良い影響を与えること、周りを和ませること、周りを楽しませること、そのようなことを神様も喜んでくださいます。神様は愛のお方だからです。私たちが愛のある行動を行うことを喜んでくださいます。ローマ人への手紙 15:2 には「私たちは一人ひとり、霊的な成長のため、益となることを図って隣人を喜ばせるべきです。」と書かれています。他の人のために益となること、ほかのひとが喜ぶことは何だろうかと考えて、自分の行動を省みていく事、それこそが神様の喜ばれる良い生き方です。私たちは自分の力でそれをなすことは難しいかもしれませんが、神様の助けを頂いて、今週も光の子どもとして歩ませて頂きましょう。

異邦人のようではなく

口から出る言葉 5:3-4

淫らな行い 5:5

暗闇のわざ? 5:11

以前の罪の状態のことか? 「以前は闇でした 5:8」参照

光の子どもとして

口にすべきは感謝のことば 5:4

善意と正義と真実のうちに歩む 5:9

何が主に喜ばれるか 5:10

神に倣う 5:1

愛のうちに 愛を頂いて

キリストを模範として

キリストは自らを捧げて下さった 5:2

捧げる愛